



シンポジウム 「在来農業とわたしたちの未来～日本と世界の 在来農業をめぐる課題と可能性～」を開催します

このシンポジウムでは、世界や日本の各地で実践されている在来農業と比較しながら、にし阿波地域で培われてきた在来農業の特徴や可能性を再発見します。そして在来農業を地域社会さらには人類全体の未来をひらく資源として活用していくための可能性や課題について考えます。

(報道概要)

- ・ 日時： 2015年9月13日 14:00～(受付:13:30～)
- ・ 会場： 穴吹農村環境改善センター
- ・ 参加費： 無料

古くは“ソラ”とよばれたにし阿波の山間部で暮らす人びとは、ときには斜度 30 度以上にもなる急傾斜地という厳しい環境で農業を営むために、驚くほど理にかなった工夫を凝らしてきました。地域の人びとが培ってきた農業や土地利用にかかわるユニークな知識・技術・制度・価値観や信仰の体系は、この地域特有の美しい景観や多様な動植物を育んできました。しかし、こうした在来農業や土地利用の工夫およびそれらに関わる文化・景観・生物種は、社会や農業の近代化の中で危機に瀕しています。たしかに大量生産・機械化・効率化などを至上とする「近代的農業モデル」の価値観に基づけば、在来農業は魅力的でないかもしれません。しかしながら、エネルギーの持続可能性や食料の安定供給、あるいは土地に対する価値観や想いといった観点からは、在来農業の重要性は今後ますます高まるかもしれません。また、とくに今世紀以降の世界各地では在来農業や文化に基づく観光開発や文化運動が盛んになっています。

このシンポジウムでは、世界や日本の各地で実践されている在来農業と比較しながら、にし阿波地域で培われてきた在来農業の特徴や可能性を再発見します。そして在来農業を地域社会さらには人類全体の未来をひらく資源として活用していくための可能性や課題について考えます。

プログラム

13：30～ 受付

【第 1 部】

14：00～14：20

ごあいさつ：兼西 茂（徳島剣山世界農業遺産推進協議会会長、つるぎ町長）、
牧田 久（徳島剣山世界農業遺産推進協議会副会長、美馬市長）
趣旨説明：内藤 直樹（徳島大学 総合科学部 准教授）

14：20～14：35 基調講演(1)
「世界農業遺産 静岡の茶草場農法について」
稲垣 栄洋（静岡大学学術院農学領域 教授）

14：35～14：50 基調講演(2)
「東アフリカと日本の雑穀栽培とその可能性について」
加藤 太（日本大学 生産資源科学部 助教）

14：50～15：00 休憩

15:00～15:15 基調講演(3)
「伝統的農法が維持してきたススキ草地の植物の多様性」
山城 考（徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 准教授）

15：15～15：30 基調講演(4)
「つるぎ町の茅場における獣害の現状把握」
山城 明日香（徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 研究員）

15:30～15:45 休憩

【第2部】

15：45～16：30 パネルトーク
「在来農業と地域社会の未来に向けて」
コーディネーター：内藤 直樹（徳島大学 総合科学部 准教授）
パネリスト：講演者全員、小泉 靖雄（西瀨農産加工研究会 会長）、
山田 一弘（美馬市役所 経済建設部 理事／商工観光課 課長）

お問い合わせ：①美馬市商工観光課
tel：0883-52-5610
email：syokou[at]city.mima.lg.jp
②徳島剣山世界農業遺産推進協議会（つるぎ町役場商工観光課内）
tel：0883-62-3111
email：syokou[at]town.tokushima-tsurugi.lg.jp
※[at]は@(アットマーク)に変更して、メール送信ください。

お問い合わせ先

部局名 総合科学部

責任者 内藤直樹

担当者 内藤直樹

電話番号 088-656-7141

メールアドレス naito.naoki@tokushima-u.ac.jp

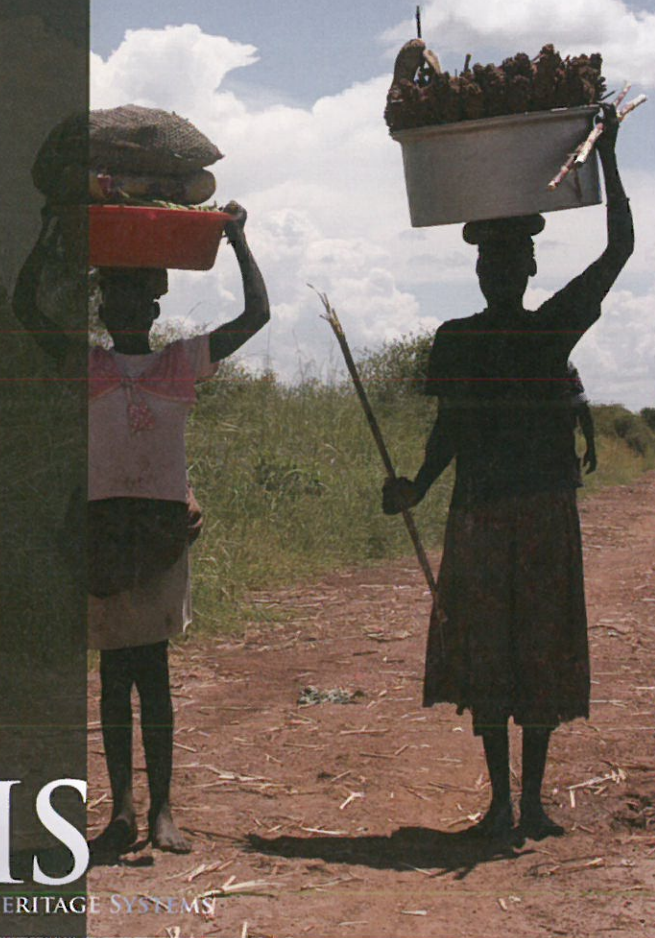
世界農業遺産

徳島・剣山の傾斜地農耕システム

をめざす

GIAHS

GLOBALLY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS



在来農業とわたしたちの未来 日本と世界の在来農業をめぐる課題と可能性

2015. 9/13 日 14:00~ (受付: 13:30)
会場: 穴吹農村環境改善センター 参加費: 無料

世界農業遺産とは、世界的に重要な農業システムを国連食糧農業機関 (FAO) が認定する仕組みです。にし阿波の山間部で暮らす人びとは、急傾斜地という厳しい環境で農業を営むために、驚くほど理にかなった工夫を凝らしてきました。地域の人びとが培ってきた農業や土地利用にかかわるユニークな知識・技術・制度・価値観や信仰の体系は、この地域特有の美しい景観や多様な動植物を育んできました。このシンポジウムでは、世界や日本の各地で実践されている在来農業と比較しながら、にし阿波地域で培われてきた在来農業の特徴や可能性を再発見します。そして在来農業を地域社会さらには人類全体の未来をひらく資源として活用していくための可能性や課題について考えます。

13:30~受付

【第1部】

14:00~14:20 ごあいさつ: 兼西 茂 (徳島剣山世界農業遺産推進協議会会長、つるぎ町長)
牧田 久 (徳島剣山世界農業遺産推進協議会副会長、美馬市長)

趣旨説明: 内藤 直樹 (徳島大学 総合科学部 准教授)

14:20~14:35 「世界農業遺産 静岡の茶草場農法について」

稲垣 栄洋 (静岡大学大学院農学領域 教授)

14:35~14:50 「東アフリカと日本の雑穀栽培とその可能性について」

加藤 太 (日本大学 生物資源科学部 助教)

14:50~15:00 休憩

15:00~15:15 「伝統的農法が維持してきたススキ草地の植物の多様性」

山城 考 (徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 准教授)

15:15~15:30 「つるぎ町の茅場における獣害の現状把握」

山城 明日香 (徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 研究員)

15:30~15:45 休憩

【第2部】

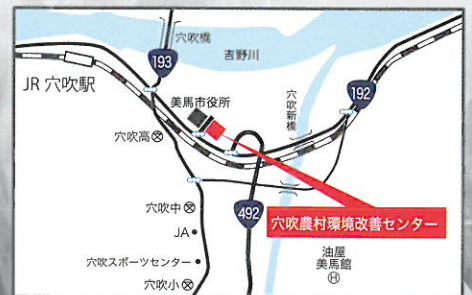
15:45~16:30 パネルトーク「在来農業と地域社会の未来に向けて」

コーディネーター: 内藤 直樹 (徳島大学 総合科学部 准教授)

パネリスト: 講演者全員、小泉 靖雄 (西洲農産加工研究会 会長)、

山田 一弘 (美馬市役所 経済建設部 理事/商工観光課 課長)

【主催】 徳島剣山世界農業遺産推進協議会 【共催】 徳島大学



アクセス

美馬市役所隣接「穴吹農村環境改善センター」

【公共交通機関】 徳島線 穴吹駅下車 徒歩約80m

【車】 自動車道利用 徳島自動車道 四町ICから南へ約15km

○一般道利用 国道492号沿い 穴吹橋南詰から東へ約30m

お問い合わせ

徳島県美馬郡つるぎ町向光字東浦1-3

徳島剣山世界農業遺産推進協議会 (つるぎ町役場商工観光課内)

TEL 0883-62-3111 FAX 0883-62-4944

syokou@town.tokushima-tsurgu.lg.jp

在来農業とわたしたちの未来

日本と世界の在来農業をめぐる課題と可能性

2015.9/13日 14:00~ (受付: 13:30)

会場: 穴吹農村環境改善センター 参加費: 無料

古くは“ソラ”とよばれたにし阿波の山間部で暮らす人びとは、ときには斜度30度以上にもなる急傾斜地という厳しい環境で農業を営むために、驚くほど理にかなった工夫を凝らしてきました。地域の人びとが培ってきた農業や土地利用にかかわるユニークな知識・技術・制度・価値観や信仰の体系は、この地域特有の美しい景観や多様な動植物を育んできました。しかし、こうした在来農業や土地利用の工夫およびそれらに関わる文化・景観・生物種は、社会や農業の近代化のなかで危機に瀕しています。たしかに大量生産・機械化・効率化などを至上とする「近代的農業モデル」の価値観に基づけば、在来農業は魅力的でないかも知れません。しかしながら、エネルギーの持続可能性や食料の安定供給、あるいは土地に対する価値観や想いといった観点からは、在来農業の重要性は今後ますます高まるかもしれません。また、とくに今世紀以降の世界各地では在来農業や文化にもとづく観光開発や文化運動が盛んになっています。このシンポジウムでは、世界や日本の各地で実践されている在来農業と比較しながら、にし阿波地域で培われてきた在来農業の特徴や可能性を再発見します。そして在来農業を地域社会さらには人類全体の未来をひらく資源として活用していくための可能性や課題について考えます。



京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。博士(地域研究)。国立民族学博物館機関研究員などを経て、現職。ケニア・ウガンダ・南スーダン・ソマリアの牧畜社会を対象に、地域で培われてきた知恵、わざ、価値観等にそくした開発・平和構築・難民支援のあり方に関する研究をおこなってきた。著書に、『社会的包摂/排除の人類学: 開発・難民・福祉』(共著)、『メディアのフィールドワーク』(共著)などがある。

内藤 直樹 (徳島大学 総合科学部 准教授)



岡山大学大学院農学研究科修了。博士(農学)。農林水産省、静岡県農林技術研究所などを経て、現職。農業や農村が作り出す自然や風景の魅力や役割を研究している。研究成果を基に、静岡の茶草場農法の世界農業遺産登録に尽力した。現在、世界農業遺産茶草場認定委員会委員長、東アジア世界農業遺産学会委員。また、雑草や昆虫などに関する多数の著述、講演を行っている。著書に、『たたかう植物: 仁義なき生存戦略』、『雑草に学ぶ「ルレラル」な生き方』、『都会の雑草、発見と楽しみ方』などがある。

稲垣 栄洋 (静岡大学学術院農学領域 教授)



京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。博士(地域研究)。日本学術振興機構特別研究員などを経て、現職。専門は地域研究と作物学。東アフリカ、特にタンザニアにおいて作物栽培と農村地域の持続的発展に関する研究をおこなう傍ら、日本では中山間地における雑穀栽培とその雑穀を利用した地域振興にもついても研究を続けている。

加藤 太 (日本大学 生物資源科学部 国際地域開発学科 助教)



東北大学大学院理学研究科生物学専攻修了。博士(理学)。専門は植物系統分類学。日本の植物の種間交雑現象や系統地理に関する研究を行っている。

山城 考 (徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 准教授)



徳島大学大学院先端技術教育部博士後期課程修了。博士(工学)。専門は動物生態学・保全遺伝学。ニホンジカやカモシカの偶蹄類を対象に、生態学的研究や遺伝的アフロネを用いた集団の遺伝的構造や分布拡大パターンの解明など、保護・管理に関する研究を行っている。

山城 明日香 (徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・アンドサイエンス研究部 研究員)



美馬市穴吹町口山淵名地区に生まれ育ち、傾斜地やカヤを活用した山地農業を営みながら、旧穴吹町議会議員として地域の発展に尽力してきた。平成25年には「西洲農産加工研究会」を設立し、高齢化が進み耕作放棄地が増える集落で、特産品づくりをおこないながら、地域活性化、交流、社会に貢献できる取り組みをテーマに様々な活動をおこなっている。

小泉 靖雄 (西洲農産加工研究会 会長)



美馬市役所経済建設部農林課課長を経て、平成27年4月より現職。徳島剣山世界農業遺産推進協議会構成員。「農業畑」で培ったノウハウを武器に、地域に埋もれている様々な資源を活用した地域づくりに行政マンとして取り組む。

山田 一弘 (美馬市役所 経済建設部 理事/商工観光課 課長)



GLOBALY IMPORTANT AGRICULTURAL HERITAGE SYSTEMS
世界農業遺産
GIAHS